

JUNGIDO

滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

発行人/宇野 勝
 発行所/滋賀県立膳所高等学校同窓会
 大津市膳所2-11-1
 TEL077-524-4295・FAX077-524-1732
 発行日/平成10年8月25日
 編集人/広報部会・谷口啓司
 印刷/有限会社服部印刷所

VOL.13

遵義の桜、咲いて100年

1898 = 桜 = 1998

1998年は創立100周年です

CONTENTS

百周年記念式典せまる	1
百周年記念式典に寄せて	1
平成10年度 総会報告	1
百周年実行委員会部会報告	2
卒業年別募金納入状況	2
特集「親子孫 三代同窓生」	4
特集「膳所高「証」」	6
周年記念同窓会報告	6
特集「我らが教師のニックネーム」	7
周年同窓会予告	7
膳所高NEWS	8

百周年記念式典せまる

膳所高等学校
 校長 浅田 幸作



同窓会々員の皆さまにおかれましては、ますますご健勝にて、各分野でご活躍のことと存じます。

皆さま方の母校、膳所高等学校は、平成10年（1998）4月をもって、満100歳の誕生日を迎えました。滋賀県

立第二尋常中学校が明治31年（1898）4月、膳所の地に産声をあげて、100年の歳月が経過しました。この100年の間、卒業生の皆さまと教職員の方々が共に携えて、営々と築かれた良き歴史と伝統の華が見事に咲き誇り、創立百周年の記念すべき年となりました。

平成6年度、「滋賀県立膳所高等学校創立百周年記念事業実行委員会」が組織され、今日まで、記念事業案が次々と企画され、逐次、実施の段階にありますが、これら事業遂行につきまして、同窓会々員の皆さまには、多大のご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

ご案内のとおり、11月7日には、新築の「びわ湖ホール」において、百周年記念式典が行われます。この記念式典は、生徒諸君にとって、有意義な、

百周年記念式典に寄せて



膳所高等学校 P.T.A会長
 中村 道男

本校創立百周年おめでとうございます。

校門の正面と遵義堂跡の石碑のあたり、校舎の壁面にも「遵義の桜、咲いて百年」の大きな看板や垂れ幕

が掲げられています。同窓会の皆さんや百周年実行委員会をはじめ関係各位には多大のご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

P.T.A会長という役をやらせていただいたおかげで、同窓会の役員の方々やスタッフの方々とお会いすることになりました。百周年を迎える本校の同窓会ですから、相当大きな組織です。大変熱心に、しかもボランティアな活動として同窓会の事務局を支えてくださっている皆さんに改めてお礼申し上げます。

さて、昨年の校訓「遵義、力行」の制定や、来年度供用予定の第二グラウンドの建設、記念事業としての付属施設の建設など、百周年を機に皆さんの本校に寄せる熱い思いが溢れています。中でも琵琶湖の

心に残る感動深いものであるべきと考え、京都市交響楽団による「ベートーベン交響曲第九番」の演奏と生徒合唱隊による合唱を中心に執り行います。

また、当日、「びわ湖ホール」での百周年記念式典の後、場所をかえて、「同窓会式典」が「大津プリンスホテル」において開催されます。この同窓会式典ご参加を機に、久しぶりに母校をお訪ねいただくのもよし、また、同窓生同志の旧交を温めていただければ、何よりと思います。

平成10年は膳所高等学校創立100年という、記念すべき、一つの節目の年にあたりますが、100周年のお祝いに満足することなく、いままでの100年の歴史と伝統を振り返り、それを受け継ぎ、これからの100年、即ち、21世紀にむけての、膳所高等学校の進むべき道筋を確かなものにするための、新たな出発の年でもあります。創立100周年を契機に新しい校訓「遵義・誠実な心で、真理と正義を追求し、人類の未来に貢献しよう、力行・自主・自立を尊び、心身を鍛え、高い理想に向かおう」も制定され、この校訓を本校の教育理念として、この校訓の精神を日々の教育活動の基本に据えて、次なる100年の膳所高等学校教育の充実・発展に役立てていきたく考えております。

(昭33年卒)

ほとりに美しい佇まいを見せたびわ湖ホールで、ベートーベンの交響曲第九番のコンサートを京都市交響楽団の演奏と本校生徒達の合唱で実現させようという記念式典のプランを大変楽しみにしています。随分前から校舎に練習の歌声が聞こえています。企画や合唱のご指導の先生方のご苦労が偲ばれますが、多感な時期を過ごす生徒達にとって、生涯の友や先生方との出会いとともに大切な思い出となるものと思います。

わが子の入学式に遵義堂跡の石碑のあたりの桜の下で記念写真をとりましたところ、もう一つの石碑に気が付きました。「誇りある青春：昭和23年9月から平成7年3月まで6千7百余名の通信教育生ここに学ぶ：平成7年3月通信制課程」これがその石碑の全文でした。卒業式にいつも数人の制服姿以外の方々がおられたのを思い出し、しばらくはその話をしたことでした。

インターネット上では、何人かの方が膳所高校の名を冠したホームページを開いておられます。「せぜめり」と呼ばれるメーリング・リストは関係者に知られています。さまざまな広がりがある百周年を機にあらたな繋がりがもたらされていくことを願っています。

本校と本校OBの皆さんの益々の発展を願ってやみません。

(昭44年卒)

創立百周年記念式典は11月7日(土)です。

平成10年度 総会報告

平成10年度同窓会定時総会が去る5月9日(土)午前10時より大津プリンスホテルにて開催されました。

会は宇野敏一副会長の開会宣言により進行。校友課長の羽野先生の総会宣言により進行されました。

校歌斉唱、物故者黙祷と続き、宇野勝同窓会会長から「いよいよ百周年の年」ということで更なるご協力をお願いしました。

引き続き浅田幸作学校長から「母校の百周年にめぐりあえた」旨、「その分一生懸命」頑張る等々のごあいさつをいただきました。

その後、感謝状贈呈、顧問・参与の先生方をご紹介、議事に入りしました。

議長に飯田勝一常任理事長を選出。会務報告、予算案以下、提出議案が活発な質疑応答の後、採択されました。

議事終了後、昭和28年卒大津東高1回の場順三氏(大和総研理事長)の「21世紀の展望」と題する講演がもたれました。

講演の後、会場を移し、懇親会を開催、118名の同窓生が旧交を温めました。

(尚、当日の総会出席者は141名でした。)

事務局よりお詫び

「JUNGIDO」12号について、印刷が不明で、かつ、一部到着が遅れました。総会の席上、会長があいさつの冒頭でお詫びいたしました。事務局といたしまして、本紙面をお借りし、改めてお詫び申し上げます。

会費納入ありがとうございました。

同窓会会費納入状況

皆様から納入いただきました、平成10年度の同窓会会費は、平成10年7月末日現在、

総額 **11,967,500円**

となっています。前払いしていただいている方については、当年度分を振替充当して、上記金額に集計させていただきます。

会員の皆様のご理解に感謝しますと共に、ますますのご協力をお願いいたします。

(財務部会)

11月7日に向けて ラストスパート!!

100周年実行委員会 部会報告

祝宴にご参加を!

記念行事式典部会

部長 村西 康彦

記念式典(学校式典)

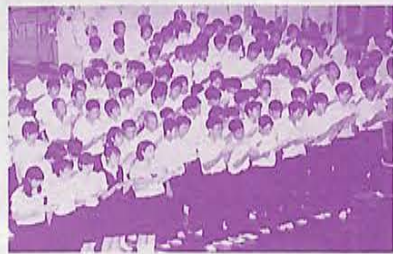
百周年記念「第九合唱隊」編成に、OB・PTAの参加を得て、順調に準備が進行しております。ご協力に感謝します。

びわ湖ホールに収容人員の関係上、同窓会員の参加者を往復はがきで募り、7月31日に締め切りましたが、定員内でしたので申込者全員を当選とし、保護者と合わせて324名を座席指定いたしました。

当選の方は、通知がきに記しました次の二点につきまして、重ねてお願いいたします。

① 11月7日(土)11時50分までに指定の席にご着席ください。なお、座席指定のおはがきをご持参ください。

② 撮影・録音は禁止ですので、カメラ・ビデオカメラ等はご持参なさい。



第九練習風景

同窓会式典(祝宴)

日時 11月7日(土) 14時30分受付開始
15時30分 開宴 (約3時間)

会場 大津プリンスホテル
コンベンションホール 淡海
内容 校歌吹奏、挨拶、祝辞、事業報告、謝辞等。
イベント 三條正人・香山美子夫妻による「歌と楽しいトークショー」



※ なお、祝宴に先立ち、膳所高茶道班OG会により、先着、150名様に「呈茶席」を設けます。せいせいご利用下さい。

今までに出席のお申し込みをいただいた方には、会費の「振込み用紙」を9月中旬に郵送いたします。当日は多数の参加者で会場受付の混乱が予想されますので、できれば9月末日までに会費の事前振込みをよろしく願います。

なお、祝宴については、9月末日まで追加の申し込みを受け付けますので、まだの方はぶっつてご参加ください。

「式典内容」放映計画

現在、「記念式典」の録画、および事前の取材による録画等で、約50分に編集して「膳所高校を紹介」(中心は「第九合唱」)してもらおうという企画を進めています。当日参加いただけなかった方も、ご家庭の「KBS京都テレビ」でご覧ください。次の日時に放映いたしますので、予定案としてお知らせしておきます。

- 第1案 11月15日(日) 16時45分〜17時40分
- 第2案 11月22日(日) 16時45分〜17時40分

校正作業真最中!!

百年史記録部会

部長 上野 滋子

通史と特集部分で構成する「教育史」、年代別座談会と班報告の「同窓会史」および「写真集」の全てにわたって、原稿が確定し、5月末から毎週一回部会を開催し、校正作業に奮闘しております。ちなみに7月末日現在、部会の開催は57回を数えることになりました。9月初旬には全ての校正を終了し、いよいよ10月末日完成を目指し、印刷・製本に取りかかる予定です。



「百年史」購入希望の方へのお願い

遅くなりましたが、百年史の正式購入申込を受け付けてさせていただきます。販売価格は1冊5,000円(送料・消費税込)です。購入ご希望の方は同封の購入申込はがきに必要事項をご記入のうえ、9月15日までに投函ください。FAX (077-524-1732)での申込も受け付けいたしますが、お電話での申込は行違いになることも考えられますのでご遠慮ください。



代金につきましては、百年史配本時に振込用紙を同封いたしますので、後日お振込みください。なお、「百年史」は5万円以上の寄付をいただいた方には、1冊無料贈呈させていただきますが、この方々については、事務局で配本リストを作成していただきますので、贈呈分以外にご入用の冊数をご記入ください。

併せて、昨年7月の名簿調査カードにて百年史購入申込に○印をお付けいただいた方も、お手数ですが今回正式申込をお願いいたします。

卒業年別 募金納入状況

平成10年7月31日 事務局到着分

募金推進部

卒業年	件数	金額
旧職員(OBを含む)	171名	465,000円
大正9年(膳中)	2名	110,000円
大正10年(膳中)	3名	70,000円
大正11年(膳中)	2名	100,000円
大正12年(膳中)	1名	50,000円
大正14年(膳中)	8名	330,000円
大正15年(膳中)	4名	40,000円
昭和2年(膳中)	1名	10,000円
昭和3年(膳中)	3名	70,000円
昭和4年(膳中)	6名	185,000円
昭和5年(膳中)	4名	125,000円
昭和6年(膳中)	18名	165,000円
昭和7年(膳中)	17名	337,000円
昭和8年(膳中)	23名	530,000円
昭和9年(膳中)	14名	200,000円
昭和10年(膳中)	19名	385,000円
昭和11年(膳中)	15名	435,000円
昭和12年(膳中)	25名	750,000円
昭和13年(膳中)	17名	435,000円
昭和14年(膳中)	35名	550,000円
昭和15年(膳中)	32名	520,000円
昭和16年(膳中)	43名	650,000円
昭和17年(膳中)	33名	495,000円
昭和18年(膳中)	52名	745,000円
昭和19年(膳中)	49名	830,000円
昭和20年(膳中)	92名	020,000円
昭和21年(膳中)	8名	175,000円
昭和22年(膳中)	73名	390,000円
昭和23年(膳中)	41名	900,000円
昭和24年(膳中)	6名	65,000円
昭和24年(旧膳高)	41名	640,000円
昭和24年(旧大津)	21名	455,000円
昭和25年(大津高)	111名	030,000円
昭和24年(旧大女)	13名	135,000円
昭和26年(大津高)	149名	506,000円
昭和27年(大津高)	116名	683,000円
昭和28年(大津東)	144名	494,000円
昭和29年(大津東)	111名	803,000円
昭和30年(大津東)	93名	240,000円
昭和31年(大津東)	96名	530,000円
昭和32年(膳所高)	90名	510,000円
昭和33年(膳所高)	92名	401,378円

会員名簿 無事発刊!

組織名簿部会

部会長 岡角 憲次

平成10年度の「会員名簿」、お手許に届きましたでしょうか。

表紙、如何でしたか。色や、「創立百周年記念」を入れたところなんか評価を頂きたいと思っています。住所調査の正確度は90%と当初の目標を少々下回りましたが、良く出来たのではないのでしょうか。この後、住所変更がありましたら、その都度、同窓会事務局までご連絡の程お願い申し上げます。

尚、若干の在庫を用意していますので、ご入用の方がおおいになりましたら同様同窓会事務局までお申し込みください。

現在、我々組織名簿部会としては、名簿の発刊が終わり、同窓会の組織を挙げて学年別に募金を追いかけていくように、常任理事の皆様方にお力添えをお願いしているところでございます。

7月31日現在事務局到着分で、住所判明会員数24,886名、募金数は3,120名で、募金して頂いた方は12%と言う数字であります。88%の皆様方に淨財の拠出を伏してお願ひ申しあげ次第でございます。募金1億円の目標達成にご協力ください。

目標額達成にご協力を!

募金推進部会

部会長 高城 宗求

7月末日現在事務局到着分の「ご寄付者ご芳名名簿」を別紙に添えました。今までに募金していただきました方々にお礼申しあげ、さらに未募金のお方には、是非募金頂きますようお願いいたします。

目標の1億円までまだあと3、200万円あまりありますが、達成のためには、同窓生の皆様方のご協力をいただくより他に頼るところがございません。今後、各学年の常任理事等の代表者をお願いして、さらに多数の寄付者を募ることにいたしますが、お互いに声を掛け合っていたいただきます。是非、ご協力くださいますようお願いいたします。

ます。たとえば1万円の募金額をいただくお方が、あと3,200人増えれば達成できるわけです。なお、1口5,000円でもありがたうお受けいたします。

また、1億円を超えたと、記念事業の更なる充実が図れますし、さらに、将来のために残しておくこともできます。(たとえば、あと3、4年後には校舎改装が計画されていますが、その時に備品等を贈呈するなど)

同封の「ご寄付者ご芳名」名簿をご覧ください。ご確認をお願いいたします。もしも記名漏れ等ございましたら、事務局にご連絡ください。(振込用紙のお間違えのために、会費に入っている場合等があります)

大津市役所膳所高校より100万円寄付さる

4月30日、大津市役所膳所高校より寄付100万円が寄せられました。代表の杉山順幸大津市総務部長(昭33年卒)から、浅田校長・飯田常任理事長に手渡されました。グループとしては今までの最高額です。ありがとうございました。



計画図面を提示します!

環境・施設整備部会

部会長 阪田 順

JUNGI D O 11号、12号で建設計画をお示しできなかった、第二グラウンドの計画図面、および、トレーニングハウスの計画図面を、初めてお知らせいたします。

この事業は、記念事業の中で最大の予算をいただいております。是非立派なものを建設したいと思っております。しかし、計画予算額の6、000万円に達しませんが、建設計画を縮小せざるをえませんので、ぜひとも募金のご協力をお願いいたします。

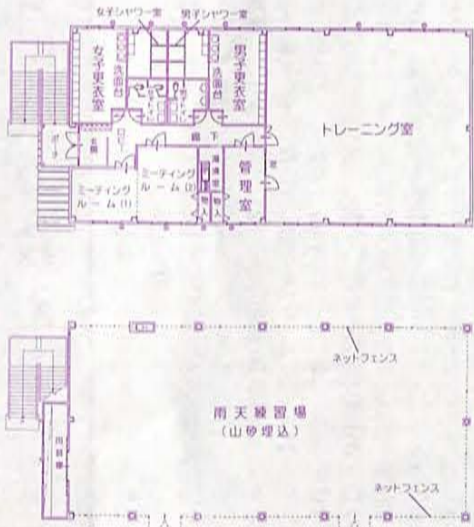
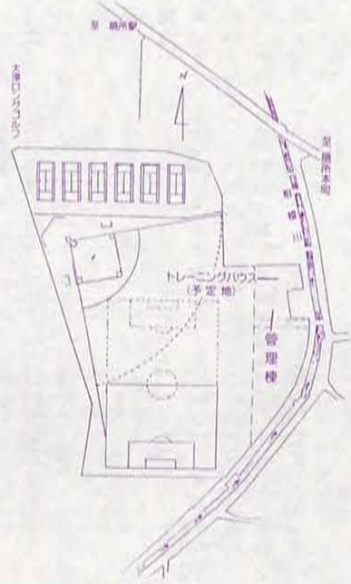
次に、現在の計画図面について概略の説明いたします。

第二グラウンドはもちろん県に実施していただく工事です。県と学校との話し合いによって進められております。別図のように、野球・サッ

カー・テニスの練習場が設置されます。これにより、現在のグラウンドにおける班活動の過密状態が大きく緩和されます。また、管理棟も県予算で建設される予定です。

トレーニングハウスは、その管理棟のそばに建設予定です。「欲しいものを贈ろう」を基本に学校当局と協議を重ねてまいりましたが、最終的に別図のようなプランとなりました。鉄骨造り2階建て。一階は雨天練習場(12m×25m)。2階は、トレーニングルーム、更衣室・シャワー室、トイレ。トレーニング機器については現在は500万円しか見積もってありません。建物を優先し、機器はおいおい充実させたいと思っております。この施設・設備が後輩生徒諸君の基礎体力向上に役立ち、班活動の成績向上につながることを期待します。

建設時期については、第二グラウンドの工事完成の目的が立つてからとなります。現在のところ、造成工事が平成10年秋頃、平成11年夏頃、供用開始が11年秋頃の予定で、管理棟設置工事は平成11年度の工事として実施される予定ですので、トレーニングハウスの建設もこれにあわせることとなります。



昭和34年 (膳所高校)	昭和35年 (膳所高校)	昭和36年 (膳所高校)	昭和37年 (膳所高校)	昭和38年 (膳所高校)	昭和39年 (膳所高校)	昭和40年 (膳所高校)	昭和41年 (膳所高校)	昭和42年 (膳所高校)	昭和43年 (膳所高校)	昭和44年 (膳所高校)	昭和45年 (膳所高校)	昭和46年 (膳所高校)	昭和47年 (膳所高校)	昭和48年 (膳所高校)	昭和49年 (膳所高校)	昭和50年 (膳所高校)	昭和51年 (膳所高校)	昭和52年 (膳所高校)	昭和53年 (膳所高校)	昭和54年 (膳所高校)	昭和55年 (膳所高校)	昭和56年 (膳所高校)	昭和57年 (膳所高校)	昭和58年 (膳所高校)	昭和59年 (膳所高校)	昭和60年 (膳所高校)	昭和61年 (膳所高校)	昭和62年 (膳所高校)	昭和63年 (膳所高校)	平成元年 (膳所高校)	平成2年 (膳所高校)	平成3年 (膳所高校)	平成4年 (膳所高校)	平成5年 (膳所高校)	平成6年 (膳所高校)	平成7年 (膳所高校)	平成8年 (膳所高校)	平成9年 (膳所高校)	平成10年 (膳所高校)	現職員(OBを含む)	企業	グループ	納入者総数	総額
78名	97名	96名	72名	87名	67名	69名	49名	55名	56名	44名	44名	31名	31名	32名	36名	39名	26名	17名	14名	26名	23名	28名	21名	29名	21名	15名	16名	22名	14名	15名	27名	22名	18名	31名	22名	22名	23名	23名	36名	19名	71名	13社	7名	68、350、528円
1、843、000円	1、715、000円	1、859、000円	1、124、000円	1、110、000円	1、763、000円	2、000、000円	750、000円	1、500、000円	840、000円	795、000円	560、000円	460、000円	490、000円	555、000円	645、000円	328、000円	210、000円	245、000円	385、000円	410、000円	335、000円	250、000円	383、000円	280、000円	280、000円	135、000円	178、000円	255、000円	135、000円	288、000円	200、000円	438、000円	180、000円	370、000円	245、000円	275、000円	265、000円	356、000円	195、000円	700、000円	410、000円	700、000円	478名	3、478名

ご協力ありがとうございました。今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

募金推進部会

特集

親子孫

三代同窓生—心に残る母校の教え—

前号の「JUNGLIO Vol.12」で、「親子孫 三代同窓生」の取材を募集致しましたところ、三家族の同窓から応募いただきました。親子孫三代、それぞれの年代の開きは、およそ20年から30年ほどあり、膳所高百年の歩みの中で、三代のそれぞれが過ごされた膳所高を、大変興味深く懐かしさを持って語っていただきました。

●大津市秋葉台在住

「義を見て明らかに決す」

伊東家の三代同窓 伊東 邦彦 (昭和46年卒 膳所高第19回) 伊東 義雅 (平成10年 膳所高入学現役)

伊東寿さんは、昭和18年に膳所を卒業されています。18年という、戦争の真っ只中ですね。

私には中学3年の時、和歌山中学から転校して来ました。当時、和歌山では国防色の服を着て、国防色の帽子被っていました。こちらへ来ますと、詰め襟の霜降り制服で、黒い帽子でした。袴はまだ肩からかける袴ではなかったですね。私はえらい昔の学校へ来たなあと思いましたが、その後二年ほどしたら国防色になり、戦闘帽を被ったという形になってきました。転校したての頃は、霜降りの制服を持っていなかったため、学校の前の膳所神社の所の洋服店に行ってその制服を買った記憶があります。たしか水谷という膳所中の英語の先生の兄さんがやっている洋服店だと思います。霜降りの服というのは、紙みたいなのに弱い服でした。体育の授業の時に相撲があり、土俵の上で相撲を取っていたら破れてしまい、着て三日目にはボロボロになりました。それだけ弱かったんですね。そういうものがない時代でした。学校へ通うのも下駄履きで通い、校舎も今みたいな立派なものではなく、椅子に腰掛けて足で揺ると、カチカチと揺れました。そういう環境で、質実剛健をモットーにして育てられたように思います。

当時、助農作業、あるいは勤労奉仕というものが年中あったのですか。

いや、秋の収穫時だけでした。4年生の時、石山の奥の方へ助農作業に出たことがあります。当時は食糧物のない時代で、農家の人が握り飯を食べさせてくれるので喜んで行ったものでした。今考えてみると、その時はすいぶん無茶な刈り方をしたものです。運動会でよくこという人文字のマークを作ったのですが、その日はZ字を作れと言っていてそういう形に草を刈っていくのですよ。そういういたずらをしてね、農家も人出不足だったのが、別に何にも言われなかったですよ。

司会 廠営宿泊について何か思い出がありませんか。 寿 僕らの時は廠営訓練というのがありました。五年生の時に響庭野の陸軍演習場へ行き、そこで一週間ほど野戦の演習をし、わずかながら軍隊の体験をしました。 司会 それは各校別々ではなくて、県全体ですか。

そうです。県全体で湖南と湖北に別れて5年生が行ったわけですね。海津まで琵琶湖汽船、昔の太湖汽船で行き、そこから歩いて行きました。そして現役の上等兵くらいの人が付いて、僕らを厳しくしつけるわけですね。夜は班制で演習を行い、斥候や歩哨になる人を決めて野戦訓練を行ったのです。そして、前方から湖北の虎姫とかの中学の斥候が来て、それを僕らの歩哨が捕まえるのです。そして斥候の帽子を取ってしまい、返さなかったりしましたね。 邦彦 そんなことを真剣にやっていたの？遊びじゃなくて。 寿 そうですよ。今思えば規模の大きな「兵隊ごっこ」でした。

司会 当時の先生方はかなり厳しかったんですか。 寿 ええ。やはりその時分のことですから厳しかったですね。しかし先生ははつきりしたんですね。国漢の先生で教頭の山田有功先生。山田先生は沖繩のご出身でした。「帰らんないさ田園将に無れんとす」という「帰来米の辞」を朗読された時、涙を流されていました。戦争も激しくなってきた時です。自分も沖繩へ帰りたいという意味もあつたのでしよう。その後、沖繩の校長先生として帰られたと聞きました。いい先生が多かったですよ。校歌を作った寺村周太郎先生は、もとは数学の先生ですが、音楽と漢文もやっておられた。四方陣というのですか、縦横の数字をあわせて同じになるといふ考え方を教えていただいたりしました。

司会 勉強の方ですが、進学校の自負というものはあったのですか。 寿 上の学校へ入った時に、卒業校はどこですかと聞かれ、「膳所中学です」と言っていると大体みんな一目置きましたね。それほど先輩方が偉かったんでしょう。僕たちの前までは150人でしたが、僕たちの時代からは定員が200人になったのです。



です。そうすると、上の学年の人から50人余計な生徒が入ったと言われたことがあります。

司会 このあたりで息子さんの邦彦さんにお話を伺いたいと思います。

邦彦 私の時は住まいが、上浜田町で膳所神社のほん近くから通学していました。学校まで5分かかるからなかつたですね。朝のチャイムが鳴っている最中に、家から走り出したりしてね。小さい頃、父親がいた頃の校舎がどうかはわかりませんが、よく遊びに行きました。剣道の道場を見に行ったり、探検だといって校庭や校舎によく入り込んでいました。そんな感じで自分の庭みたいな気がしましたね。それでたまたま膳所高へ入ったんですけれども、特に記憶に残っているのは、父親の同級生がたぶん先生をしていらした。たぶんなられた奥村先生、直接習ってはいませんが、いつも青筋をたてていた谷元先生、それから北條先生、大友先生といった方々が、父親と同級生でした。父親からそんな話を聞いていたので、偉い先生というよりは親しみの気持ちが強かったですね。父親は校長先生のことを「タツカイ」と、ニックネームで呼んでいましたからね。

司会 校長の横井さんね。 邦彦 3年生の時の文化祭で演劇をやったことが思い出にあります。その頃は3学年のクラスを縦割りにして、1年から3年のクラスグループで体育祭や文化祭に参加しました。それで西劇の台本を下級生に書いてもらって、それを友達と二人で演出して一つの劇を作った覚えがあります。

司会 お孫さんが、今年入学されていますね。現役ですね。 邦彦 入学したばかりです。入るとは思っていないんですけど。 司会 受験勉強はけっこう大変だったんじゃないですか。 邦彦 中途半端な勉強で、入れるかなというところだったので、塾で勉強してたらなんとかなるという感じが入っていました。

司会 息子の邦彦の時より、孫の時の方が嬉しかったですね。 寿 入学して学校の雰囲気はいいかですか。 司会 入る前は放任主義と聞いていて、いいなあと思っていましたが、先生が授業で「勉強しろ」とか、とやかく言わないけど、やらなかつたら落ちていくし、膳所高の生徒は言わなくても勝手に勉強の方に流れていくから言わんと話され、まわりを見ていたら、結局みんな勉強に流れて、僕も「やばいかな」と思っています。

司会 僕らの時は先生は、そういう教訓的なことを言わなかつたですね。反対に時間がきたらバツと帰る。そういう感覚でした。 司会 最後にひとこと、「心に残る母校の教え」についてお聞かせください。

「義を見て明らかに決す」という横領がありました。道義ということが一番印象に残っていますね。「至誠道義、自主力行」の言葉、たしかにいい言葉だと思えます。自分で出来る限りの努力をして、義に遵じることが一番。ですから膳所生というのは、わりに損をしているのですよ。義に遵じるばかりに、要領よく世の中を渡ることができない。つい、損をする方向へ平気に行ってしまうという傾向があるのです。だから世渡りは下手なんです。

邦彦 親父の言ってることわかります。膳所高を出て私立へ入られた方はよくわかると思います。まじめというふうまく世渡りするという感覚が少なくてね。僕が教えていただいたのは、己を知ることですね。膳所高に入っている、なんか裸にされたような感じがしますね。自分が裸になって自分自身を見つめ直せたらいいか、世間は甘くないよと。膳所高の方針やないですけども、自分で自分の道を見つけないと。いい意味でも悪い意味でも、そういうところですね。

司会 「至誠道義、自主力行」を私達の座右の銘として、今後もしっかりしていきたいと思えます。

●大津市平津在住

「文武両道を目指して」

井上家の三代同窓 井上 達雄 (昭和9年卒 膳所高第32回) 井上一夫 (昭和38年卒 膳所高第11回) 井上 輝政 (平成2年卒 膳所高第38回)

まずお爺さまの井上達雄さんにお話を伺いします。昭和4年に入学されて昭和9年の卒業ということですね。草創期を過ぎて大正のロマンが残っている中で在学されていたわけですが、そのような中で思い出をお聞かせ願えればと思うのですが。

達雄 私の在学は、昭和の5、6年の頃で、今と同じ不景気の時代、金融恐慌がありました。この石山地区が大津市になったのが昭和8年で、その時の提灯行列が印象に残っていますね。

司会 ちょうど校長先生が中山先生から浅井先生に移った頃ですね。その当時は、すいふんとスポーツが盛んな時代でしたね。達雄も、徒歩でいるところに行かれていたようですね。

達雄 達雄は茶臼山に歩いてよく行ってましたね。スポーツは野球が盛んでした。山科に緑が丘球場というのがあり、そこで京津大会の試合が行われていました。やはり京都の平安中学が強かったですね。

司会 先生の思い出はありますか。 達雄 特徴のある先生が多かったですね。英語の大西先生、国語は浜中先生、数学は羽野先生、四国からみえていた赤松先生、物理は宇野先生。

司会 勉強のほうはかなり厳しかったんですか。 達雄 教室の席順は成績順に並ばれていました。よく出来る人が後ろで、出来ないものは前の方に座らされていました。座っているところを見れば、その人の成績がすぐわかりました。級長は、バツを付けていつも後にいました。

司会 ここから膳所までどうやって通学されていたのですか。

達雄 今の国道422号線沿いの石山寺港まで歩き、そこから汽船で膳所まで通いました。膳所公園のところに棧橋があり、ちょうど今の近江大橋のところです。

司会 息子さんにお伺いしたいと思います。昭和30年代に在学されていますね。

一夫 昭和35年に入学、38年に卒業しています。

司会 今の時代は、受験勉強が中心になっているようですが、当時はどうでしたか。

一夫 当時は確かに受験勉強もありましたが、どちらかというとクラブ活動を活発にやっていたような気がします。私は陸上競技をやっています。学校のグラウンドが狭かったのが、皇子山中学や粟津中学のグラウンドを借りて練習していました。練習場所をさがすのに大変な時代でした。

司会 在学中の思い出を話したら、やはり陸上という話になりますか。

一夫 そうですね。勉強よりはクラブですね。それに加えて、当時は選択科目があり、私は計算実務を選択しました。いわゆる簿記、珠算のごとで、ソロバンがうまくいったという思い出もありますね。ちょっと受験校には特異でした。計算実務を担当しておられたのは立石先生でした。

司会 思い出深い先生ということ。

一夫 物理の馬杉先生かな。ユニークな教え方、理解しやすい教え方を下さった思い出があります。また、二年の担任の八耳先生が、ホームルームの時間に、一日一語の英単語を黒板に書き、これを覚えなさいと言われ、一つ一つ覚えたということが印象に残っています。

司会 最後に、今も心に残る母校の教えがあればお聞かせください。

一夫 自主、自立という言葉が、日常の生きる支えになっている感じがありますね。特に受験勉強をした時、補習授業があったわけでもなく、それぞれ個人に任ずという教育がなされ、それが三年間で揃えつけられて、大学、社会に出て、自分の生きる支えになっているような気がします。



追記 当日、都合がつかなくて取材に出席いただけなかった長男の井上輝政さんから、後日編集部からの質問について、次のようなご感想をいただきました。

井上輝政さん



在学中の一番の思い出
黒部への修学旅行。アルプス連山の雪渓が非常に美しく、友人と思わず歓声をあげたくらい印象的でありました。白馬寮で、みんなで楽しく踊ったことなど懐かしい思い出があります。

部活動の思い出

膳所高校は、部活動が活発でインターハイなどで優秀な成績を残しており、入学できれば体育系クラブに入り身体を鍛えながら勉強に励もうと考えていました。そこでラグビー部に入部し、高校ラグビーの甲子園・花園を目指し、多くの仲間と熱中しました。一年生の時、先輩の努力の甲斐あって花園に出場できました。卒業後も意気の合う友達を持つことが出来たことが有意義でした。

「二刀流に学ぶ因数分解」

●守山市在住

山本 憲三(昭和3年卒 膳中第26回)
山本美也子(昭和30年卒 大津東高第3回)
山本 緑(昭和26年卒 大津高第2回 娘婿)
山本 敏(昭和55年卒 膳高第28回)
山本 謙(平成元年卒 膳高第37回)

司会 昭和3年に卒業されており、当時はまた戦争の最中ではなかった時代だと思いますが、在学中の思い出をお聞かせください。

憲三 僕らの前の時代には、膳中の有名な事件、ストライキがありました。

司会 大正十年に起こった赤旗事件ですね。

憲三 それで僕らの時代は、校長先生が中山さんになった最初の時ですね。

司会 学校への通学は、何を利用されていたのですか。

憲三 石山駅まで汽車で行き、石山駅から膳所まで電車で通学していました。しかしほとんどみんなは、石山駅から歩いて通っていましたね。電車賃もいるし、歩いて粟津の辺りを通って、本多神社を横切って膳所に入ったり、また膳所の刑務所の方をぐるぐる回ったりして、通っていましたね。途中でタバコを吸うたりした人がいたりしてね(笑)。……僕らの時には、木辺さんがいましたね。レンズ磨きの権威で、後に錦織寺の法主さんになられた方ですね。

司会 懐かしい先生の思い出についてお聞かせいただければと思います。

憲三 僕はね、始めて入った時の担任が大西さんという英語の先生でしたね。A、B、Cと3クラスありましたが、僕らの担任が大西先生で、五年間ずっと同じでした。

司会 お聞きしましたら、昭和初期の膳中はそんなに校則がきちっとあるわけではなく、どちらかというと自由な雰囲気があったのではないのでしょうか。

憲三 そうそう、しかし今のようないかなる学校ではなかったですね。悪いことをした奴もいたけど、覚えているのは、修学旅行で畳を破った生徒がおりましたね。後で問



題になったけど。そういうこともたまにはあったけど、みな子供っぽいイタズラだけでしたね。現在のようないろんな問題はなかったですね。

司会 引き続きまして、ご主人の緑さんと奥さまの美也子さんにお伺いしたいと思います。

美也子 私の時代からは、地域性がはれた大津東高の時代でした。私の一年上までは、この守山でしたら、草津高校にしかいなかった時代です。

緑 私の時代は、膳中と膳所高校が一緒にいた時代です。それから大津高校と志賀高校の二つに分かれた時代です。学校の名前としては大津高校でしたね。

司会 在学中の一番の思い出としてどのようなことがありましたか。

美也子 進学校ということで、心から楽しく遊んだという記憶がありません。遊ぶことに罪悪感をもって高校生活を過ごしたような感じがします。

緑 私は、体育祭の鉄棒の模範演技に駆り出されました。それが思い出にあります。当日の朝の練習で、逆車輪から正車輪に移る際に、逆に逆鉄棒から振り落とされ床に強打しました。それで模範演技に出ることができなかったのです。その時のことが、今から考えると辛かった思い出として残っています。

美也子 夏の高校野球、京滋大会で西京極に応援に行ったことが思い出にあります。その時の対戦は、京都の平安高校だと思えます。その時の応援の仕方ですが、膳所高校というのか、その気持ちを大事にした応援で、袴をはいてはちまきをし、下駄をはいた応援だったと思います。今の高校野球のような力強い応援でなく、袴をはいて太鼓をたたいたようなパンカラな応援でした。

緑 クラブの思い出ではラグビーですね。膳所中から志賀高へ行った私と同年の連中がラグビー部を作ったのです。志賀高が廃校になり、その連中が膳所高に戻ってきてラグビーを続けました。昭和23年の創部で、私も参加しておりました。

司会 心に残る母校の教えについてお聞かせください。

緑 私の場合は、友人たちがよく出来たということが影響しています。そのことがあってうかうかしておれないという気持ちを持ちました。努力しなければいかなんかということですね。膳中時代の友人は、みんな優秀で、追いつくのが大変だったのです。友人に追いつくための努力が、社会に入っても持続し、活かされたと思います。それが膳中の教えがもしもありませんが、やはり友人の影響が強かったですね。

美也子 人間味溢れる個性的な先生が多く、その先生方から学ぶことが多かったような気がします。例えば数学の田中利一先生は、因数分解の授業で、分解する時に宮本武蔵の二刀流の例を出されて、こちらとあちらを同時に考える



ことを教えてくださいました。国語の授業についても、まず教科書を読むのではなく、全然違う話から教科書に入っていくから入ってくるのです。ですから今でも、宮本武蔵のことがテレビなんか出てきますと、膳所高のことや田中利一先生のことや友達の名前なんか浮かんでくるのですよ。

追記 山本家にはこの他お二人のお孫さんが、膳所高出身です。二人とも東京在住で、生憎当日の座談会にご出席いただくことが出来ませんでした。後日、長男の敏さんから編集部へ質問に、次のようなご感想をいただきました。



在学中の思い出
夏休みの宿題が膨大だったことが今でも忘れられません。数学の難問50、「戦争と平和」の5冊の読破と感想文等々。休むに休んでいられない夏休みでした。

先生の思い出
現国の奥村先生は独自の指導方法で、現代文の解釈の仕方や論理的思考方法について教授いただきました。美術の岡野先生は、大学の芸術系学科を受験する際に大変お世話になりました。

本特集「親子孫三代同窓生」には、掲載させていただいた三大家族以外にも応募いただきながら、三代揃ってご健在でないなどの理由で掲載できなかったご家族がございます。ご応募に御礼申し上げます。

膳所高「語」

12号で膳所高「語」の募集をお願いいたしましたところ、お便りいただきました。なつかしい語に出会い、「責任を果せば果す程自由になれる」と云う事なども、この頃に教えられたものかと、改めて感じました。その中の多い語から次に掲げました。

じゅんぎどー JUNGIDO

平成4年春、膳所校同窓会新体制が整うのと同時に、広報部会の活動として広報紙が復刊され、今回13号を発行するに至っている。

じゅんぎどう 遵義堂

膳所藩校を遵義堂と言い、その跡地に第二尋常中学校として創立され、10年後に膳所中学校、新学制によって、膳所、大津、大津東と改称を繰り返して現在の膳所高となった。

じゅんぎ 遵義 りょつこう 力行

百周年という節目に当たり、新しく制定された校訓の言葉。膳中時代の校訓は「至誠遵義」「自主力行」であった。

「書経」の「洪範」に「偏無く頗無く玉の義（誼）に遵へ」とあり、「中庸」の一節に「学を好むは知に近く、力めて行ふは仁に近く、恥を知るは勇に近し」とある。諸橋「大漢和辞典」によるとそれぞれ、「正しい道に循ふ」、「力をつくしておこなふ」という意味である。

せきろくじょうし 石鹿城址

1601年に徳川家康が建てさせた膳所城の跡のことで、湖面に映る姿が、鹿が寝ている姿に似ていた所からこの呼び名がある。当時の学問朱子学では、白鹿は最高目標の表現としてよく使われたが、膳所の人々は、不朽の精神と謙遜の意味をこめ、白鹿城とせず価値のないものとして表現される石をのせて石鹿城と呼んだ。（現・膳所城跡公園）以前は御本丸と呼んでお弁当など食べに行っていたものだ。

みめい 未明

昭和23年、新制の膳所高の誕生とともに文芸班とその機関誌が創られることとなり、今も発行されている。昭和30年頃、チゴイネルワイゼンを弾く初恋物語が話題を呼んだことが懐かしい。（詳しくは80年記念誌の、249ページ参照）

ブランク

先生の都合などで、急に休講になった時のこと。

ファイヤー

運動会など全校行事の夜、火をたき皆で火を囲んで楽しく語らった。この時のこと。

エスケープ

授業を抜け出すこと。

だいへん 代返

休んでいる人の代わりに返事をする。先生の方がうわてで、知らん振りして休みの印をつけられた事もあった。

ゲルピン

お金のないことの俗称。メツチェン

女の子のことを男子学生がこう呼んだ。すえひろてい 末広亭（へいまいど）

ご夫婦二人のおうどんやさん。「へい毎度」といっても言われたので、へいまいどが通称となっていた。きつねうどんが特に美味しかった。

昭和30年代まであった喫茶店。夏の、山盛りにサービスされた10円のいちご氷・20円のミルク氷が美味しかった。

みふじ 美富士

昭和32年からの食堂で、丸38年たつ。特に人気の焼きそばはものすごく量が多いので、大きいことの形容としても使われている。（高橋）

周年記念同窓会



卒業50周年記念同窓会(膳中46回)

今年には誠に目出度い母校創立百周年記念、そして私達は最後の膳中生として、昭和23年3月巣立ってから丁度半世紀を迎えた。

そこで、卒業50周年を記念して「同級会の開催」「記念誌の発行」そして「記念品の作成」を三本柱に記念事業を行なった。

「同級会」は、4月12日(日)石山・船岩で遠来の友や50年振りの旧友など86名の参加を得て盛会裡に催した。瀬田川畔で記念写真撮影のあと、54名の物故者の追悼法要を学友大角光徹師により厳修

特に今は亡き友の一人一人の説上げに、ありし日の容姿等がふつふつと浮び感慨深いものがあった。世話人代表の中井善作兄の挨拶に続き、記念事業の経過報告、関東・大阪会の46回活動報告で第一



部を終了、懇親会では、多くの車座で旧交をたつぷりと温め合い、自然発生の校歌「草むす城は……」、故中山忠先生直伝の「昭和維新の歌」や「同期の桜」の大合唱は、感動的で、同期の絆の深さを再確認し合った。懇親の中で、再来年「古稀同級会」開催の声が上がり、達者での再会を約しつつ、二次会あるいは家路についた。

「卒業50周年記念誌」は、膳中時代の懐かしい回顧特に戦時中東での魚雷づくりや農家への援農奉仕の想い出、ボランティア活動中の近況報告等100余点の投稿文と、青春時代の恩師、旧友とのセピア色の写真、老夫婦の仲睦まじいカラー写真など10余枚の提供によりB5判80頁の体裁を整え発刊した。

「記念品」は、スクールカラーの紫色に、白く卒業50周年記念等とプリントした風呂敷を作成し、同級会参加者に贈呈した。

追記 「記念誌」の卒業写真中の学級担任は、文科3組・川部長蔵、理科1組・鈴木貞治郎、理科2組・小島市太郎の各先生でした。

物故者名簿に、永原武幸・濱田慶造・藤井庄一の3君のお名前を加えて下さい。（昭和23年卒 田中健一）

真珠会 昭和24年卒業(旧大津)

昭和18年に県立大津高等女学校に入学した私達は、同23年卒業生250人中、学制改革で約50名が大津高校の3年に進み24年3月に卒業した女性のみのクラス会で、真珠会として発足しました。

毎年例会を開いて親睦を深めて今日に至りました。来年は卒業50周年を迎えることになりました。

今年度は去る6月21日「都ホテル」を会場として恩師松山義夫先生(大津市大萱住)のご臨席を仰ぎ、毎回ながら少女時代の師弟の雰囲気にもまれて和やかなひとときを過ごすことができました。

(磯谷 松子・小嶋満智子)



漕艇班創部百周年

OB会よりのお礼と報告

本校創立と同時に創部である漕艇班が百周年を迎えました。OB会では、昨年度よりその記念事業を

準備してきました。今も全国のトップレベルを維持している我が班を、さらに世界に飛躍させるためには、何よりも良い艇を持つことが必要だと考え、新艇の購入を事業の中心に置きました。

OB会で募金活動を展開し、同窓会からも100万円の補助をいただき、事業予算約400万円で、ドイツ製ダブルスカル、イタリア製のシングルスカル各1艇を購入し、学校へ寄贈しました。3月21日に進水式を行い、さつ

そく5月の朝日レガッタでは優勝いたしました。また、別記事(8面の「膳所高NEWS」)のように、今年には2名の生徒が同時に、世界ジュニア選手権に出場するという栄えある活躍をしてくれております。今後も世界を見据えた活動が展開されることを期待しております。

同窓会からのご援助に対し厚くお礼申し上げます。



膳所高卒業生寄贈図書

「石鹿文庫」

著者名 書名・巻次(版次)

池田 若郎 池田若郎作品集 葦甲記念

池田 哲也 書苑探訪

谷 悦男 佳草百話

板倉 昭子他編 茜14 特集 板倉秀道悼

澤島 博他 滋賀県教育委員会編

苗村 和正 琵琶湖と自然、四訂版

草津市立街道文化情報センター編

くさつこぼればな史、草津市史

のひろば 増補版

前野 隆資 前野隆資写真集 琵琶湖・水物

語 湖国の絆は時代へときを

こえて

卒業生文庫「石鹿文庫」へご寄贈を。

同窓生の著書を集めた「石鹿文庫」も皆様のご寄贈で充実してまいりましたが、さらなる充実をめざしてご協力をお願いします。なお、ご寄贈いただく際には同窓会事務局までお知らせください。

我らが教師のニックネーム

覚えていらっしやいますか
我らが名物教師のニックネーム

ご応募ありがとうございます。現在なら失礼なニックネームもありますが、言い得て妙。尊敬と親愛を込めた愛称だったのでしょう。今は亡き先生も多いですが、現役で活躍中の若い先生方もおられます。同窓会や同期会、同級会での歓談の話題にしていたら幸いです。

我らがホットントット

座りのよい小肥りの短軀、鼻下にひげ、柔和な眼差し、我らがホットントットは昔の油引きした古い廊下に面した教室にあらわれるや、やおろ片手を斜め顔前に差し上げ、掌をくるくる前後に回らせながら悠揚迫らず、調子をつけて「変更や変更や、幾何と国語の入れ替えや」と授業の変更を宣うた。四国は愛媛のご出身の幾何の赤松春雄先生のジェスチャーぶりが今も尚、眼前に彷彿とする。ネームの由来だが先生の風貌を失礼ながらアフリカ南部に住む同名の人種になぞらえたことであろう。今となつては残念ながら誰が奉つたのか何時の頃からなのか知る由もない。しかし何となく先生が醸し出される雰囲気をももの見事に捉えたものと言ひ得よう。

因みに当時の古い新村出の辞苑によれば、「アフリカの人種の一、アフリカ州南部の一部に住し顔面は菱形、皮膚は黄褐色、女子は甚だしくその臀部が後方に突き出す。身長5吹以下云々」とある。我らホットントットは或る種の敬愛の情をこめ、ホットントット、過ごした60有余年前の日々を昨日のように思い起こす。ご存命なら改めて失礼をお詫びし、あのなつかしい「変更や変更や」をもう一度お聞きしたいものだ。
(昭和15年卒 小笠原 滋)

昭和30年3月卒業の私たちが歌っていた「陰の道遥歌」をお知らせします。
私たちが一同は先生方を敬愛申し上げると共に尊敬ひとつとせ、人に知られた東高の名物教師の棚卸し、そいつあ、豪気だね、そいつあ豪気だね。
ふたつとせ、二人並んだ名コンビ、岡田と馬杉の無稽ヒゲそいつあ、豪気だね、そいつあ豪気だね。(岡田節夫先生、馬杉七郎先生)
みつとせ、見ればみるほど良く光る、「まるごと教師」のはげ頭、そいつあ、豪気だね、そいつあ豪気だね。(中山 忠先生)

よつとせ、横目でニラムはフランケン、右かと思えば左指す、そいつあ、豪気だね、そいつあ豪気だね。(田中岩四郎先生)
いつとせ、いつも時間を守らないガア・ガアうるさいガマ子ちゃん、そいつあ、豪気だね、そいつあ豪気だね。(福島笑子先生)

むつとせ、昔囃らしたグロマンも、たあけた歳(とし)には勝てやせぬ、そいつあ、豪気だね、そいつあ豪気だね。(原山淑夫先生)
ななつとせ、何とかならぬかお茶漬の、たーれたヨダシの後始末、そいつあ、豪気だね、そいつあ豪気だね。(中井一郎先生)
やつとせ、やさしい声に送られてニヤケて出て来る下駄男(けたお)さん、そいつあ、豪気だね、そいつあ豪気だね。(角井義一先生)
ここのつとせ、今夜も飲んでる踊ってる林校長の夕ノ踊り、そいつあ、豪気だね、そいつあ豪気だね。(林浩校長)

昭和56年前後におられた頃のニックネームです。
物理の芦田豊先生……アッシー
● 数学の伊藤克己先生……いとかつ or とかげ
● 数学の正田善次郎先生……人間ワイパー
● 英語の稲田元先生……いんげん
● 体育の井上朱美先生……あけみちゃん
(昭和58年卒 田中幹雄)

ベクトル(ベクちゃん)
数学の先生でした山崎敏先生は、なぜかベクちゃん”とよばれて、親しまれていました。雨の日になると、なぜかいない……。休みですという、生徒にとつてはうれいしい先生でした。数学のできない私にとつて、数学の先生はあまり好きになれる存在では決まっていなくて、なぜか、今でも思い出すちよつと変わった先生で憎めなかつたですね。また会いたい先生の一入です。
私は平成元年卒業のただ今27歳主婦です。信子

広報部取材ニックネーム(敬称略・順不同)

- ・ドテカン(第2代校長 堤寛)・マイナス(第3代校長 中山文雄)・メン蛸(第4代校長 浅井綱雄)・ナフタリン(第5代校長 杉本一郎)・たこ(第6代校長 林浩)・グラマン(第7代校長 原山淑夫)・ボケ・タツカン(第8代校長 横井正治)・百科事典(第9・11代校長 松山義夫)・まめたん(第13代校長 小笠原保信)・なんち(第16代校長 南池宜樹)・マンドリン(羽栗賢孝)・ライオン・徳利少尉(山下武雄)・バック(南石福二郎)・天保銭(山泉業一)・サンチャク(足立俊男)・牛(三宅定吉)・山羊さん・アサハン(阿佐常右衛門)・鳥屋トリアさん(清水律示)・大砲(竹元勇)・イモ(村上逸郎)・ヤッパ(浅田大作)・たぬき(仲田登高)・クマユウ(隈川豊)・オジ(岡本牧夫)・馬賊(長尾景治)・山嵐(多林正躬)・鬼瓦(松下政一)・雨蛙(かえる)(下郷嘉一郎)・漫才(寺田善次)・山賊(松村範三)・仁丹(小川真治郎)・きんととき(坂田善三郎)・猫(縣格二)・キュービィ(清水貞助)・石臼(増井政次郎)・ノーチン(川田俊一)・トラ(佐藤彦彦)・センチュムシ(辻元季男)・ホッチャー(佐藤トット)・赤松春雄)・おにぎり(飯塚正)・ケムシ(伊藤義敬)・チャカン(宇佐美祐寛)・お月さん(岡部政二)・クマソ(金谷勇)・大根(川那辺大願)・チョン六(川部長蔵)・ホックス(木村晴三)・デッサン(木村正夫)・爺ちゃん(北川賢次郎)・木炭(北川武太郎)・タイヤン(北山正造)・カッ

パ(小島市太郎)・アクサク(西条正雄)・イチゴ(杉江邦男)・カンチ(鈴木寛次郎)・スコッチ(田中平次郎)・バクサン(竹之内久次郎)・ホコト(山本 亨)・カッパ(寺村周太郎)・デッサン(堂前実)・伍長(中江七郎)・アクマ(橋本幸)・いなちゃん(橋本繁造)・オケツ(春名二郎)・クンケン(細谷雄次郎)・セイブ(三上修造)・カテック(村上満寿男)・メンチャ(柳町達也)・デッサンII(山崎与嗣夫)・ハブ(山田有功)・たわし(岡田節夫)・ギョロン(元藤庄太郎)・袴(山本利達)・ブロン(松尾花子)・ゴーチョ(波多野久男)・河童(田中利一)・ギース(中山弘)・だんご(中山昌子)・たにげん(谷元峰男)・ジープ(高橋正孝)・やぎ(馬杉七郎)・ヤング・ヤング(平井正)・下駄(なんさん)(南光雄)・さめ(井上俊)・鉄火面(前川哲郎)・さんかん(藤井寛)・アチャコ(角井義一)・フキ(岩井富貴子)・あつちゃん(加藤敦子)・おます(益野千代)・ほりビィ(堀井政信)・メルヘン先生(柳沢誠二)・ほりビィ(堀井政信)・とばッパ(富波義明)・フジ先生(藤井茂雄)・ミッシィ(三島宏)・ムーニン(村西康彦)・はのりん(羽野ポール)・羽野正孝)・師匠(前田弘司)・けんしろう(高橋健四郎)・トミー・ピエール(富田孝)

周年同窓会 予告

45周年記念同窓会

● 6月27日付の「お知らせ」とお願い「ハガキで予告その後予定内容変更の上、7月17日付往復ハガキでのご案内(出欠回答)を差上げました。今回は母校創立百周年記念行事の同窓会式典(祝宴)と同日時、場所での開催(8月5日現在で約100名出席見込、全体の中で東高1回用のテーブル確保済)の形で進めています。返信ハガキ未発送の方は早く出欠回答を郵送してください。
日時 平成10年11月7日
午後3時30分(受付開始午後2時30分)

場所 大津プリンスホテル
コンベンションホール(淡海)
会費 10,000円(会費は出席申込者に振込用紙が郵送されるので、出来る限り事前振込してください)

連絡先 大村(上田) 倭文子
TEL: FAX 077-545-8483
各組準備委員

30周年記念同窓会

● 昭和43年卒の30周年記念同窓会は、左記の要項(予定)で計画しています。当同級会はオリエンピック開催の年の1月2日に開催というときめきでしたが、百周年や他の行事と重なりましたので、一年ず

らし、満30周年の1月2日に開催したいと思えます。
平成11年1月2日(土)
会場 新琵琶湖ホテル(浜大津)
その他は未定です。幹事会を招集して細部をつめたと思っています。(川瀬善行)

30周年記念同窓会

昭和44年卒業(膳所高第17回)
平成11年1月2日(土)
会場 (新)琵琶湖ホテル(浜大津)
詳細については未定です。
(10月頃に案内状を送付予定です。)

世話人 笠 正人他
連絡先 平柿完治
TEL 077-524-8022
FAX 077-524-6752
(事務所)

昭和51年卒業同窓会

“人生の折り返し地点を迎えて 卒業後初の同窓会”
平成10年11月22日(日)午後6時30分
(新琵琶湖ホテル(浜大津)2F「ローズの間」)
二次会も準備致しております。
代表幹事 猪飼 一功

投稿「百周年に寄せて」
遅咲きのわが青春
松本 瑞江
昭和49年卒業(膳所高22回)

レポートを書いて、レポートを書いて、レポートを書いて、そしてテストを受けた。とほとほと孤独な歩みではあったが、決してあきらめないで歩き続けた通信制の膳高時代。それはまさに遅咲きの青春だった。しかし私はこの時、生涯教育の心を学んだ。

不審な広告勧誘等にご注意

百周年を間近に控え、いろいろな業者から広告や寄付等の案内があると思います。(事務局にも様々な問い合わせがきております。)(事務局にも様々な問い合わせがきております。)(事務局にも様々な問い合わせがきております。)



百年史編纂室より

これまでのこの欄では、「百年史」作業の経過を報告してまいりましたが、「仕事が忙しくて、とても本が作れない」「校内体制が非協力的だ」等々、実に消極的な物言いが続いております。しかし、切間際に来て、大幅な質の向上に成功しました。初めて「ぜひお読み下さい」と自信を持って言える状態にたどりつきました。

これまでは歴史の本ということで、客観性を気にかけてきました。他校の本を見ても、「何月何日のことだった」「経費は何円だった」「参加者は何名で、何時何分に出発した」など、数字の厳密さ、一次史料的な要素を追求したものが主流でした。しかし本校ではある時期の「教務日誌」が処分されていたりして、基礎資料の不十分さのため、調査中心の本作りは絶望的でした。

そうした「資料集」を作れないことの一方で、他校の本は面白くないということも実感しました。格調を重んじるあまり言葉が難しく、当時学校に在籍していた者の実感とか離れたような気取った解釈で埋められているからです。従って私は、わかりやすい教科書的な本作り（最後の1ヶ月になって）態度を改めました。何人参加したか、ではなく、なぜそんな参加者が出るようになったのか、参加した人の感想はどうだったのか、それを調べて書きました。悪く言えば雑誌的な切り口も増えたかもしれませんが、わかりやすい、しかも当時が再現できるような書き口が変わったと思います。

調子を改めたところ、これが自分にも合っていたらしく、書くペースが上がり、2週間は昼夜を忘れました。「80年誌」をベースに加筆修正していったのですが、結果はもとの倍の分量になりました。そんな中、これまでの記録から外されていた色々なエピソードを収録することができました。明治時代の焼き芋屋、大正時代の蛍狩り、玉音放送の思い出、男女共学当初の大騒ぎ、大津東高時代の様子、一本だけの大銀杏や清風庵のこと、卒業式から答辞がなくなった本当の理由、1年だけのクラス制学園祭、白馬旅行、マスケームの歴史、…。中にはほんの1、2行書き足しただけのものもあります。しかし、第二尋常中学から現在までの、生き生きとした毎日が少しでも形にとどまるように努力したつもりです。

もちろん私は一介の若手教師に過ぎず、わずか2、3人の年長の方からお話を伺っただけで書いたところもあります。物事の理由は一つだけとは限りませんし、日付の誤りや抜け落ちた記述も少なくないと思います。しかし、間違いを恐れては作業が進まなかったのは事実です。一応は、お話しなり記述なり、何かに基づいて書きました。とにかく、百年がわかりやすく見えてくる点を評価してやって下さい。お手元に置いていただければ幸いです。

教育史部分担当 谷澤一輝（現職員・膳高32回卒）



編集後記

●今年の梅雨は例年より明けるのが遅く、8月になってやっと強い陽差しが戻り、蝉の鳴き声も一段と賑やかです。もめにもめた小淵新内閣も誕生し、日本の経済も再生されるのでしょうか。期待したいものです。

12号の特集「校歌に思う」は大変好評でした。13号の特集「親子孫・三代同窓生」はいかがでしょうか。一同に集って座談会形式がとれなくて残念でした。

14号は百年記念式典の様子など、盛りだくさんお伝え出来ると思います。今、各部会が、11月7日に向けて最後の追い込みに必死に頑張っております。

14号をご期待下さい。（Y・M）

- 上野滋子 (東2) 谷口啓司 (膳10)
- 田中美津代 (東4) 佐田葉子 (旧大)
- 山田 勲 (膳11) 宮崎美恵 (大3)
- 高橋好乃 (東4) 花坂多恵子 (膳6)
- 服部 章 (膳12) 岡澤則子 (膳26)
- 吉田 稔 (膳26) 福井 浩 (膳29)
- 谷澤一輝 (膳32)



「創立百年の歓喜」を

歌い上げたい！
「第九」練習進む

11月7日のびわ湖ホールでの「記念式典」では、京都市交響楽団による「第九」演奏が行われますが、その「合唱部分」を在校生約360名を中心とした大合唱隊が歌います。高校生だけの「第九」合唱はおそらく全国で類の無いことでしょう。この企画は、式典を単なる式典に終わらせず、生徒の活動を中心としたものにするという考えによるものです。また、最も有名な「歓喜のテーマ」の部分は、全校生徒で歌います。新築のびわ湖ホールに若い歌声を轟かせたいと思っています。もともと高校生にはきわめて難しい曲ですが、「創立百年の歓喜」を歌い上げたく、企画しました。「第九」練習は、昨年5月頃から音楽授業で取り組み始め、今年4月からは放課後の練習も加えてきました。まだまだ不十分ですが、9月以降練習に拍車をかけて、当日まで少しでも質の高い「第九」を目指して頑張っています。

学園祭実施さる

創立百周年の年の学園祭（湖風祭）が、7月9日・10日に文化祭、12日に体育祭の日程で行

漕艇班 世界ジュニア出場

今年8/5〜9にオーストリア・オッテンスハイムでボートの世界ジュニア選手権が行われ、本校から黄瀬春奈さん、徳永由美さん（両名とも3年生）2名の選手が日本代表として出場しました。2人とも女子クォドルプル（フォアスカル）で出場しました。昨年インターハイで女子ダブル



今年インターハイで女子ダブル

われきました。今年も創立百周年を意識した、「やっぱり膳所高 100年経っても大丈夫」というテーマでした。例年の内容に加えて、文化祭にクラス発表が新趣向で、先方の寸劇も新趣向で、ハイレベルのマスゲームも、体育祭が雨天順延で日曜日になったため、多くの観客のもとで披露されました。若い力が示された三日間でした。



膳所高 100年経ても大丈夫

全国大会出場班紹介

さる7月10日、夏季休暇中に全国大会に出場する班の壮行会が行われました。今年には次の各班が出場します。

全国高校総合体育大会
漕艇 (男子) ダブルスカル、女子 ダブルスカル
空手道 (男子) 組手、女子 形
全国高校総合文化祭
吹奏楽。放送。小倉百人一首かるた。囲碁。

ルスカルで全国制覇を成し遂げましたが、その後3回の国内合宿を経て選考されました。代表選手は、女子6名、男子3名です。過去ボート部から4人が海外遠征を果たしましたが、今年には本校創立百周年、漕艇班創部百周年に花を添えることになりました。結果としては15位（17カ国）の成績に終わり、目標のAファイナル入りは果たせませんでした。二人の感想としては、「自分の実力は十分発揮できたが、世界とのレベルの違いはどうしようもありませんでした。しかし、多くの課題を持って帰りましたので、次に備えたいと思います」とのことでした。今後ともご声援をお願いします。

また、OB会・同窓会より支援していただき購入することができた艇により、朝日レガッタ、全日本選手権で好成績を収めることができました。

事務局便り

膳所神社、膳所城跡公園の周辺でジーシー、シンシン、カナカナと騒いだ蝉時雨がツクツクボーシに変わりました。事務局では記念行事参加申込みの整理、寄付金の整理入力さらに卒業年度別入金状況の旬日資料作成等、多忙の中頑張っています。

新しい「同窓会員名簿」について
I、新同窓会員名簿を申し込まれた皆様宛に、過日新名簿をお届けしましたが、誤りがあれば追って正誤表を出しますので、事務局へ期限9月末日迄に、その旨お申出下さい。
II、事務局へ届いたお便りから紹介します。西宮市在住、膳所中学校を大正9年卒業の小島信三先輩より「……「会員名簿」を有り難く拝受、卒業生の消息を調査、整理の上、立派な名簿を完成され、心から敬意を表します。……」と宇野会長はじめ役員方への感謝のお気持ちがかかれていました。

同窓会員の皆さん、ご計画の周年同窓会、同級会の宛名発送等あれば出来るだけお手伝いしますので事務局迄一報ください。お待ちしています。